伊豆協

協　会　報　　一般社団法人 下田建設業協会　　第 107 号

IZUMI　　下田市東本郷二丁目７番１号　　平成26年１月１日

西伊豆町 乗初め

新年のご挨拶

下田建設業協会
会長　河津　市元

２０１４年の新春を迎え、謹んでお慶び申しあげます。

昨年は当協会の運営にあたり、ご支援、ご協力を賜りまして誠にありがとうございました。心より厚くお礼申し上げます。本年も、昨年同様によろしくお願い申し上げます。

さて、3.11の東日本大震災以来社会インフラの必要性が認識され、さらに笹子トンネルの天井版落下事故や老朽化した構造物の補修、補強など社会インフラの長寿化対策の必要性も認識され、対策が急がれております。静岡県はさらに南海トラフ巨大地震や津波が予想され、静岡協会本部は静岡県防災会議の一員として、参加を要請されそれぞれの地域における地方業者の災害時の役割が期待されてきております。災害国の日本列島の強靭化法案も国会で審議されており、われわれ建設に携わる者にとっては、建設という仕事の意義と必要性が高まり、予算の獲得も賛同を得やすい環境になり、久々の温かい追い風が吹き始めたと感じております。２０２０年の東京オリンピックも決定され、将来への明るい兆しが見え始めてきています。

しかし一方で急激な事業の拡大に伴う副作用として、資材価格の値上り、不足する職人や人件費の値上がりが現実のものとなり、不調の入札や工期の延長等計画された事業の執行に支障が出始めております。われわれ業界も、今後の推移を不安を持ちながら、注意深く観察し先を見越した方策をしなければなりません。急激な事業の拡大より確実で長期的で緩やかな拡大を望むところであります。

今年は賀茂郡では、伊豆縦貫道河津下田道路の着工も見えてきておりますし、年度末には田方地域の伊豆縦貫と県のバイパス中央道の連結もあり、民間景気の拡大と合わせて観光客の増加が期待されております。

今年9月には、県の防災訓練が下田を中心に行われる計画であり、業界としても何らかの形で参加をし地域業者の役割、存在価値を知らしめる機会になると思います。

下田協会も一般社団法人として運営を継続しておりますが、厳しい状況は継続をしています。協会員の皆様には変わらぬご支援、ご協力をお願いすると共に、一致団結した組織力を発揮して課題克服に努めていただきますよう、お願い申し上げます。協会員皆様方のご活躍、ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

下田土木事務所
所長　平野　忠幸

新年あけまして、おめでとうございます。

下田建設業協会の皆様には、日頃より建設行政の推進にあたり、多方面にわたりご支援ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、台風の上陸や集中豪雨など日本各地が災害に見舞われ、自然の猛威を再認識するとともに、防災の重要性を感じさせられた一年でありました。

特に、昨年七月に西伊豆町を襲った集中豪雨では、幸いにも人的被害はありませんでしたが、道路の通行止、土砂災害や河川埋塞による家屋の全半壊や床上床下浸水という被害を受けました。被害直後の啓開作業や応急対策など皆様のご協力により、迅速な対応ができたと思っております。この場を借りて感謝いたします。現在は、本格的な復旧工事に取り組んでお

り、一日も早い完成を目指しております。

また、昨年は、南海トラフの巨大地震を想定した「静岡県第四次地震被害想定」と今後十年間の整備目標を示した「静岡県地震・津波対策アクションプログラム２０１３」を公表しました。特に伊豆地域は、大きな被害が想定されております。

そのためにも、アクションプログラムに示された水門や海岸保全施設等の整備、命の道とも言われている伊豆縦貫自動車道や橋梁の耐震補強、構造物の長寿命化などを進め、地震・津波をはじめ災害に強い安心・安全なまちづくりに努めてまいります。

豊かな自然景観、温泉、食材などに恵まれた伊豆地域は、世界文化遺産登録となった富士山とジオパークとの相乗効果で、日本国内だけでなく、海外からもより多くの観光客が伊豆地域を訪れることが期待されます。

この地域の主要産業である観光を支え、安全安心な地域として持続的に発展していくためには、地域の実情に精通し、社会基盤整備に携わる地元建設業も力が極めて大きいものと考えます。

今年は、甲午（きのえうま）年です。前回の甲午の一九五四（昭和二九）年は、高度経済成長が始まった年だそうです。国全体も建設業界も馬を乗りこなして成長の波に乗りたいものです。新しい年が下田建設業協会及び会員の皆様方にとりまして、良き一年となりますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

賀茂農林事務所

所長　山本　修

新年あけまして、おめでとうございます。

下田建設業協会会員の皆様には、健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、地球温暖化の影響によると思われる異常気象が各地で報告される中、十月には台風二十六号の直撃を受けた伊豆大島では多数の死者・行方不明者が出るなど甚大な被害がありました。また、賀茂地域でも西伊豆町において七月十八日に時間雨量九十ミリを超える集中豪雨があり、床上浸水などの大きな被害がありました。

賀茂地域は、急峻な地形や脆弱な地質という自然の条件から地震や豪雨による山地災害が懸念されることから、これまで、治山施設の整備など山地災害に備えた取組を行ってきました。農林事務所ではこれからも引き続き、施設の整備などを進め、防災・減災を図り、地域住民の皆様の安心・安全を確保していきます。

さて、当地域の農林業は地域住民の高齢化等により耕作放棄地や荒廃森林の増加に加えて、有害鳥獣による農作物や森林への被害が深刻さを増すなど、依然として大変厳しい状況にあります。

こうした中、国においては担い手に農地を集積する仕組みを整備するなどの動きがありますが、当事務所では伊豆縦貫自動車道の建設工事に伴い発生する残土を活用した農地の造成を検討しています。新たな農地造成は耕作放棄地の再生のほか、ハイレベルな果樹の生産地や新規就農者のための農地の確保など、地域農業の課題解決に繋がるものと考えています。

災害復旧の場面だけでなく、地域の様々な課題を解決し、地域の活性化を図っていくことに関しても、地域の建設業の皆様が果たす役割は大きいものと考えます。皆様には今後も農林事務所の取組への御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

結びに、会員の皆様方の益々の御活躍と御健勝を祈念いたしまして、新年の御挨拶といたします。

年男の一言

河津建設㈱
土屋 陽一郎

あけましておめでとうございます。今年3回目の年男となります。

昨今は、東日本大震災や、観測史上最大などといわれるような台風や豪雨災害も頻発し、土木技術者としてその対策の一端に携わる責任・やりがいを感じる日々を過ごしております。

振り返ると、今日の自分があるのは、諸先輩方や周囲の皆様に支えられているおかげだと思います。今後の抱負としては、人の支えになれるようにならなければと感じています。

今年、河津建設は創業100周年を迎えます。これまで何百人もの方が会社を支えてきたことを考えると私も先輩方に習い、会社を盛り立てるように努力していかなければと思います。

仕事面でも私生活でも中途半端にならないよう、何事においても着実に取り組んでいきたいと思います。

河津建設㈱
正木 成明

新年明けましておめでとうございます。

「午年」、昭和29年生まれ、今年めでたく？60歳の年男となりました。自分自身としては、5回目の「年男」の事より、今年迎える60歳定年の事を実感として考えるところです。

月日が流れるのは早いもので、昭和53年に河津建設に入社して、37年が過ぎようとしています。

ここまで土木屋として勤めてこられたのも、諸先輩方の指導、同僚及び協力業者様のご協力の賜物と改めて感謝するしだいです。

顧みますと、入社して2年目から、沼津、焼津、御前崎、寸又峡、御殿場、川崎と色々な場所の現場に配属され、土木工事、港湾工事、林道工事など様々な工事を経験させて貰ったことは、今考えれば、土木技術者として、貴重な経験をさせていただき、工事施工にどれほど役に立ったか、わかりません。

中でも、自慢できる工事の一つとして、7年前に施工した稲生沢川河口の「みなと橋架替工事」は、特に記憶に残る工事となりました。

工事費も総額12億弱の大プロジェクト工事であり、未経験の工種も多く、大変苦労もしましたが自分の力量の120％の力を注いだ工事であり、大変勉強になった工事です。この工事に関われたことを大変ありがたく思っています。これからの若い土木技術者には、色々な工事、工種を経験していただき、様々な問題点にぶつかりながらも、その問題点を苦労しながら、一つ一つ解決していく事により、立派な土木屋に育ってもらいたいと切に願っています。

又、最近では、管理書類、提出書類、工事評価点等々書類に、ついつい追いまくられ、現場をないがしろにする傾向を感じます。

われわれ、自分自身も含めて、改めて、「現場監督」でなく「土木技術者である」との自覚、意識、プライドを持ち、尚且つ、現場施工を楽しみながら、これからの工事施工を進めてもらいたいと思います。

60歳を迎えるに当り、残りの人生20年足らずなので、悔いのない人生を楽しんで歩んでいきたいと思います。

今年、60歳の還暦を迎えるとは、本当に、早いものですね！

土屋造園土木
飯田 芳行

あけましておめでとうございます。

自身5回目の年男ですが年男を意識するよりは60歳還暦に実感させられます。人60年一回りしたのかな、自分自身四十代のつもりで現役続行中で、まだまだ六回七回目の年男を目指す気持ちを持ち続けたいと思います。

実は六年前より一人で山小屋製作を始めました、廃材集めより始まり古電柱の柱廃材の壁、やっと六年の年月を経て完成しました。中に囲炉裏を作り木工作業場、軽トラのガレージと十坪ほどの夢の山小屋が完成しました。

休日は一人囲炉裏の炭火に暖をとりながら木工製作、日暮れには、ちょっと一杯心も体もリフレッシュ、還暦以後の休日を楽しみたいと思います。

我々を取り巻く経済状況もまだまだ地方には、上昇機運すら実感できません。しかし我々は会社事業を守る、従業員の雇用を守る、常にプレッシャーの中にいます。そんな中こんな山小屋休日もいいものですよ。常に健康、協会員の皆さんも健康に注意し、一年をともに頑張りましょう。

現場ルポ

工事概要

建設工事名	平成25年度 宇久須川支川不動尊川通常砂防【防災・安全交付金】工事(堰堤工)
工事箇所	賀茂郡西伊豆町宇久須地先
工　　期	平成25年8月15日～平成26年2月28日
発 注 者	静岡県下田土木事務所
工事内容	コンクリート堰堤本体工　V=486m³ 地盤改良工　V=480m³
施 工 者	丸宇興業株式会社

本工事は、宇久須川支川不動尊川に砂防堰堤を建設する工事です。上部は通常のコンクリート構造物ですが下部の基礎部分は砂防ソイルセメント工法(INSEM工法)を採用しています。

INSEM工法とはIN-situ Stabilized Excavated Materialの略であり、現地発生土砂とセメントと水を混合してINSEM材を製造し、振動ローラで締固め、構造物を構築する工法です。

基礎部の掘削形状が階段状になっていて施工に苦労しました。はじめて施工する工法でしたのでINSEM工法について取り上げたいと思います

INSEM工法

1.配合試験

施工に入る前に配合試験を行います。配合計画書を数パターン作成します。それに基づき実際に供試体を作成します。
強度試験を行い、どの配合計画で設計強度を得られるのか確認し、施工性も考慮してINSEM材の配合を決定します。

2.施　　工

①基礎部の掘削をします。INSEM材を盛土しますので階段状(高さ50cm)に掘削します。
②INSEMを製造する混合槽(30m³)を鉄板でつくります。 ③スケルトンバケットで80mm以下にふるい分けをします。
④混合攪拌前に土砂の含水比試験(直接加熱法)を行い含水比を把握し、加水量を決定します。
⑤配合計画書に基づいて土砂・セメント系固化材・水を混合槽へ投入し、バックホウで90分(1m³/3分)攪拌混合します。
⑥フェノールフタレイン溶液散布による混合状況の確認をします。
⑦施工日/1回で圧縮強度試験用の試験体を3本採取し、材齢28日で圧縮強度試験を行います。
⑧製造されたINSEM材を現場へ搬入し、バックホウにて厚さ30cm程度に敷均します。
⑨3ｔローラで2.8m/10秒の速度で無振動で4回、振動で6回転圧して、厚さ25cmで仕上げます。
⑩所定の層で密度管理を実施します。

①掘削完了(下流側より撮影)

①掘削完了(右岸側より撮影)

①掘削完了(左岸側より撮影)

②混合槽作製

③ふるい分け状況
スケルトンバケットによる
ふるい分け

④含水比試験(直接加熱方)
直接加熱方による
含水比試験

④混合攪拌
バックホウによる
攪拌混合

⑤混合状況確認
フェノールフタレイン溶液
による混合状況確認

⑥試験体採取
圧縮強度用試験体採取

⑦敷均し
バックホウによる
敷均し

⑧ローラ転圧
ローラによる転圧
速度測定中

⑨現場密度試験

本工事は、まだ施工中でありますので、これからも事故を起こさないように作業手順を遵守し、安全第一で無事に完成できるように努めていきます

下田建設業協会と静岡県下田土木事務所の意見交換会

日時：11月26日、於：下田建設業会館

◎冒頭、河津会長は「暮らしを守り、住環境を良くし安心な地域を作る共通の目標がある。同じ方向を向いて互いに努力していきたい。施工で起こっている課題を聞いて頂き、また忌憚のないご意見を頂いて良い方向にできればと思う」とあいさつ。平野所長からは「発注者と受注者の区別なく、より良いものを作りたいという気持ちは同じ。相互に理解し合い、より良い社会資本整備を進めたい」と挨拶があり、会議に入った。

◎下田土木より予算配分状況、第4次地震被害想定による防災対策、本年の西伊豆豪雨災害対策、工事提出書類の簡素化、入札書類の不備や簡素化などの説明の後、質疑を行った。

明かり掘削作業の地山掘削勾配

下田建協：斜面の崩壊事故が年間30件以上発生している。大規模工事に比べ我々の施工する小規模の工事で災害が多く発生しているのが現状だ。掘削作業中の崩壊による災害の特徴は、擁壁施工中の災害が7割を占め、もうひとつは、5分よりもきつい勾配で事故が多発していること。施工中の安全を、ぜひコンサルタントに指導し設計に反映して安全でスムーズな施工を行いたい。

下田土木：掘削は6分でやっていると考えていたが、5分や4分でやっているとすれば労働安全衛生法に触れる事も考えられ、もし事故が起これば設計者もそれなりの処罰を受けなければならなくなる。危険と感じたら協議していただき、善処する。設計上はN値8などで設計していると思うが、安全第一が基本であり最優先だ。

衛星携帯電話貸与について

下田建協：災害時の連絡手段と小規模工事の作業の連絡のため、衛星携帯電話の導入を検討してきたが、各地区と本部で7台導入するとなると、購入に約140万円、通話料などの維持費に年間約50万円がかかり、実現していない。衛星携帯電話7台を貸与して頂けないか。

下田土木：松崎支所管内は本当に携帯が通じなくて我々も困っている。特に山中の現場では全く通じず、ある程度山から下りてきてやっとつながる状況なので、なんとかしたいという気持ちはあった。だが、役所で常時貸与するのはなかなか難しい。

道路情報盤には電話が入っており、緊急時はカギをお渡ししてそれを使ってもらう方法はある。携帯電話でも山中で通じる場所はあるので、普段からそういう場所を把握して頂ければと思う。

残土処理場確保

下田建協：各建設業者は残土処理場の確保に頭を悩ませている。今後の残土処理場確保や処理費について、お考えを伺いたい。

下田土木：東海道沿線の土木事務所では、残土処分場が確保され、リストにある中から距離が近く処分費が安いところの費用で計上するのが当たり前なのだが、下田はそうでないのが現状。「業者が自己所有する処理場の場合はどうなるのか」という質問については、処分費が公表されており公に開かれた処分場ならば、設計に反映するようにする。「遠くに持って行った場合、処分費を設計計上して欲しい」という要望については、下田では処分場がなく15キロだけ計上してあとは自由処分というやり方だったが、直していかなければならないと考える。

コンサルタントの測量・設計成果品と現場の差異について

下田建協：コンサルの書いた絵と現場を照らし合わせて、実際にできるかどうか、土木さんでもぜひ一度チェックをして頂きたい現場も一部にある。そうすれば、スムーズに現場が進む。

下田土木：我々発注者側にも責任はある。コンサルから成果品を受け取る時に監督員がしっかりとチェックし、問題があるなら指摘するよう、現場の職員への指導をしたい。下田土木は若い監督員が比較的多く、細かいところまで目が行き届かないこともあるため、主任監督員や企画検査課の職員がさらにチェックをする体制を整えたい。

下田建設業協会と下田土木がより良い社会資本整備を共通の目標とし、相互に努力し、補い合い、より良い設計と施工により健全経営を目指すための建設的な意見交換の機会であった。

事業報告

理事会

・11月11日開催

国との災害協定に基づく災害対策車両操作訓練への参加、職務執行状況報告、特化型訓練、役員改選（県協会）について協議しまた報告した。

委員会等

▽若手の会

・9月6日開催

HPをどのように作成するかの流れ、更新の内容について協議した。

・12月5日開催

ホームページ作成の進捗状況、来年度の予定ついて協議した。

▽広報委員会

・11月21日開催

広報誌「伊豆海」第107号（1月1日発行）の編集方針について打合せを行った。

▽安全委員会

・10月3日開催

下田土木事務所と(一社)下田建設業協会との下田・南伊豆地区合同現場安全パトロールを実施した後、第4回安全委員会を開催し、労働災害の状況、県建設業労働災害防止大会等について協議した。

・10月25日開催

賀茂農林事務所と(一社)下田建設業協会との河津・東伊豆地区合同現場安全パトロールを実施した後、第5回安全委員会を開催し、労働災害の状況、足場の安全点検等について協議した。

・11月18日開催

松崎・西伊豆地区の現場安全パトロールを実施した後、第6回安全委員会を開催し、労働災害の状況、足場の点検実務者研修などを協議した。

研修会・講習会等

▽全国労働衛生週間説明会・講習会

・9月10日開催

全国労働衛生週間を控え、三島労働基準協会賀茂支部は三島労働基準監督署の協力を得て、同週間の説明会とストレスコントロールと自己管理に関する講習会を開催した。

▽下田地区一斉美化運動（カーブミラーの清掃等）

・9月27日開催

秋の交通安全運動に併せて、社会貢献活動を行うことにより建設業が地域の重要な産業であることをアピールし、地域の福祉に貢献するためカーブミラーの清掃を実施した。

▽下田土木事務所と(一社)下田建設業協会との意見交換会の開催

・11月26日開催

下田土木事務所幹部7名と建設業協会理事等8名との意見交換会を開催した。

その他

▽特化型(緊急輸送)交通基盤部訓練への参加

・11月6日実施

県(危機管理局・交通基盤部)が行う訓練に参加し道路啓開のため応急復旧の出動要請やその応諾の方法を確認しまた課題を検討した。

▽テレビを利用した監理技術者講習会

・9月4日開催

(財)建設業振興基金と(株)建設産業振興センターは下田建設業会館において講習会を開催した。監理技術者3名が受講した。

ジオパーク 河津エリア『河津七滝』

出合い滝

高さ4m　幅2m　長さ18m

河津川と萩入川の二つの川が出会い、一つの流れになる場所にある滝です。